



服飾管見

五

凡

7邊3
1369
4



服飾管見卷第十目錄

齊服

弁服始
頭巾飾
袷頭
摺衣
同文色
紐
組紐





服節管見卷第十

權中納言從三位源朝臣宗武撰

齋服乃始

孝徳天皇乃紀十三階の冠と云く^給り^所未^所不

此冠者大會饗良客四月七日^齋時^所著^所厚^所何

此^後の世^に申^祀巳^上の^まは^つり^由依^巳と^此礼^記

服節管見卷第十目録



各此冠七とくさくしり七もり七也七衣七紀七也七衣七紀七
晚七の辨七らう七の七ら七

文武天皇御宇新令御制七もり七也七衣七紀七
礼七襦七と大七紀七

大寧元年七御宇七新令七御制七もり七也七衣七紀七
礼七襦七と大七紀七

信七角七へ七申七儀七
下七ハ朝七服七を七用七ひ七し七

私考七あり七ゆ七へ七は七儀七也七
儀七也七私七考七あり七ゆ七へ七は七儀七也七

て何れ七も七一七時七に七浮七新七天皇七御七踐七初七の七大七志七尊七志七と七神七傳七也七

之七令七衣七襦七飾七と七い七ふ七ら七し七る七也七
衣七襦七飾七と七い七ふ七ら七し七る七也七

一七つ七に七衣七襦七と七い七ふ七ら七し七る七也七
一七つ七に七衣七襦七と七い七ふ七ら七し七る七也七

礼七襦七と七い七ふ七ら七し七る七也七
礼七襦七と七い七ふ七ら七し七る七也七

月七の七初七め七衣七襦七飾七と七い七ふ七ら七し七る七也七
月七の七初七め七衣七襦七飾七と七い七ふ七ら七し七る七也七

後朝彼乃異志くしく此書に也

頭中洗飾

頭中ハ例此のれりともろくしつらり
（左）

多岐のれハ此のれり
（中）

た右此肩此系よ多々
（右）

その中
（左）

るし急ぐた右各

右津がたのたハ右ハ右ハ右ハ右ハ右ハ

まにまに

らにに

いふくわかししはくきうかたうくはたふたる系

とがわしげたあこつたふわがれをたふすのりふ

とあゆりくうつをたふすはこころをたふすしそ

うらなちをいふはたふすのりふのりふのりふのりふ

とあゆりくうつをたふすはこころをたふすしそ

てた形をたふすはこころをたふすしそ

梅乃形之状心象も日陰綱常とくく大祀中祀は古事記

也木綿綱常沖葵綱常たははくはくはくはくはくはく

柳

頭

後世浅祐は古事記のりふのりふのりふのりふのりふ

此相異年なるをいふと此御柳頭と何の花かと羨ししま

此はあつみの度此式申登りしつふとねむりやうし似たり

そはく此朝比央悠紀主基此標と裁するもさなほ

うはもくすれは標御柳頭御屏風たどりしはあつと

あつりしつとせりしつとせりしつとせりしつとせりしつと

天平勝宝元年十一月二十日此新嘗令此肆はあつ

詔に應りてつとあつてつとあつてつとあつてつとあつて

島山雨点在橋宇受爾左之任奉者卿大夫等と

うはあつりしつとせりしつとせりしつとせりしつとせりしつと

事也、つりくは合字鏡苑の、の島山とつとつと此甚は

十 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

うし 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

三 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

十月 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

庭くわし 疎く 庭くわし 疎く 庭くわし 疎く

冬也冬ししりりふふりりのの大大花花ととりりのの大大臣臣とと友友花花なりなりとといいははすするる也也
今今のの親親王王紅紅梅梅をを臣臣ととししてて之之をを花花にに比比ししてて御御辨辨別別ををししめめららせせりり也也
花花比比のの行行 二字 行
字字のの事事ををいいははすすにに 以以つつてて南南のの世世にに御御度度ををたたととすす

梅梅右右のの橋橋とといいははすするるにに 後後のの親親王王紅紅梅梅 親王

梅梅のの系系花花なりなりとといいははすするるにに 天皇天皇のの御御辨辨別別にに 以以つつてて麟麟

鳳鳳のの冠冠代代徴徴 一一不不下下にに信信とといいははすするるにに 皇皇のの御御辨辨別別

麟麟鳳鳳をを御御辨辨別別にに 以以つつてて 皇皇のの御御辨辨別別

とと梅梅をを御御辨辨別別にに 以以つつてて 皇皇のの御御辨辨別別

をを御御辨辨別別にに 以以つつてて 皇皇のの御御辨辨別別

ららのの梅梅をを御御辨辨別別にに 以以つつてて 皇皇のの御御辨辨別別

ららのの梅梅をを御御辨辨別別にに 以以つつてて 皇皇のの御御辨辨別別

ハ修斎シウサイ儀ハハシラセヨシラセヨト云クハ元カ

ト云クハ元カシラセヨト云クハ元カシラセヨ

クハ元カシラセヨト云クハ元カシラセヨ

クハ元カシラセヨト云クハ元カシラセヨ

クハ元カシラセヨト云クハ元カシラセヨ

クハ元カシラセヨト云クハ元カシラセヨ

クハ元カシラセヨト云クハ元カシラセヨ

樹衣決事

貞觀儀式踐祚儀大嘗會氏下上宮内省令賜齋服律

祇官伯已下彈琴已上律一人律伯一人律長士一人律巫部一人律彈琴二人律各

榛藍摺^綿袍一領、白袴一腰、史生已下神服已上百世七人

史生、史人神部廿一人、卜部十人、交使部十三人、阿以国忌部五人、神服七十人、各青摺布衫一領、^之花^之深^之摺^之

小斎、親王已下及群官并内侍已下、女嬬已上青摺、衫

各一領

五位以上不謂男女、淺深相對、紅深無紐、餘皆紐、及京會、同者加白蔭縵

之^元花^元之^元花^元之^元花^元

此親王已下群官内侍^{傳禮}以下、此青摺、此衫、延式式、青摺袍

之^元花^元之^元花^元之^元花^元、儀式式、等、不、襖、衫、と、袍、之、つ、り、の、

摺、の、袍、之、つ、り、の、襖、也、貞、觀、儀、式、淺、袴、大、耳、祭、の、親、事、也、

大、辨、官、下、之、以、下、之、應、行、青、摺、袍、摺、百、陸、拾、領、^拾

領、依、返、布、百、六、十、七、領、也、之、つ、り、の、也、此、細、布、化、中、之、史、生、史、人、神、部、廿、四、人

下^卜部、廿、六、人、使、部、十、三、人、忌、部、五、人、神、服、七、十、六、人、之、つ、り、の、

公了は衫を施^カか^スる事^ニ知^ルし、志^スる延^ズ衣^ノ式^ヲ忠^ニ

此^レ親^ト王^ト下^ニ以^テも衫^ヲ而^シ侍^ス事^ヲ始^メり、^別制^ト常^々合^ス此^レ非^ズ

此^レ切^リ非^ズ祇^ト伯^ト已^テ下^ニ厚^ク琴^ヲ已^テ上^ニ十三^ノ人^ノ於^テ襖^セり、^此を

延^ズ衣^ノ式^ト別^ニ一^丈一^尺二^尺と^シり、^此を^中御^座の

御^座襖^ノ料^ト別^ニ一^丈三^尺四^尺と^シり、^此を^後御^座

正^ニ衣^ト給^スる^ハ、御^座襖^ノ料^ト別^ニ一^丈三^尺と^シり、^此を^二丈^二尺

子^也、是^レ襖^ノ料^ト別^ニ一^丈二^尺と^シり、^此を^衣服^全襖

此^レ正^ニ解^ル、謂^フ無^ク襖^ノ之^衣也、^此を^御座^ノ料^ト別^ニ一^丈二^尺と^シり、^此を^御座^ノ料^ト

綿^綿入^ル正^ニ衣^ト給^スる、^此を^白也、^此を^延衣^ノ式^ト別^ニ一^丈二^尺と^シり、^此を^綿襖

此^レを^御座^ノ料^ト別^ニ一^丈二^尺と^シり、^此を^綿襖

あはれ書下ふなり考法上大祀の大章いし

いし位^上上^上礼服をとりし先^上座を

ぬき移衣延衣或ふ心な^上親王なり

いふを^精精^{なり}礼^をぬ^りし^はす^はす

布^は丈^と尺^とを^さし^て既^に後^と也^は

袷^も節^令も^もす^は房^に衣^を取^り初^め

て^は衣^をぬ^きた^はあ^らも^も衣^をぬ^きた^は衣^の布^は

衣^の形^はり^りを^取り^て衣^をぬ^きた^は

衣^の形^はり^りを^取り^て衣^をぬ^きた^は

衣^の形^はり^りを^取り^て衣^をぬ^きた^は

物元 此正く 何れも元 何れも元

く世垂れ領也 世直 世直 世直

世直 鳥取 世直 世直

世直 世直 世直 世直

世直 世直 世直 世直

世直 世直 世直 世直

世直 世直 世直 世直

世直 世直 世直 世直

世直 世直 世直 世直

世直 世直 世直 世直

服飾管見卷第十一

推中納言從三位源朝臣宗武撰

直衣此事

直衣とハ下直の衣の畧云なり、衣服令よ凡服色ハ白、

黄丹、紫、藕、芳、緋、紅、黄、椽、纁、蒲、荀、绿、緋、缥、桑、黄、指

衣、紫、紫、椽、黑、如此之属、當色以下各兼得服之

て朝廷の事よ、必仕冠を用^らう^るを以^て履^は、此^は履^を條^下に垂

の衣^は形^るる^るを^知べ^し、西^は抄^は古^實新^叙五^位以上^に

鞆^は著^し旧^の袍^之直^衣と^りぬ^るも、殿^上人^舊例^以て直^衣

為^す束^帶袍^とり^ぬる^も、彼^後を^條に^送法^也なり、延^喜
彈^正

式^上後^も五^位以上^の朝^服は^もる^ると^りぬ^るは、直^衣の^形なり^とす、
但^旧位^に袍^を直^衣と^りぬ^るは、元^位袍^形なり^とす、
但^旧位^に袍^を直^衣と^りぬ^るは、元^位袍^形なり^とす、
但^旧位^に袍^を直^衣と^りぬ^るは、元^位袍^形なり^とす、

形^とす^るふ^ら、^との^か人^よハ^下直^の袍^をゆ^りさ^しぬ^るは、
形^とす^るふ^ら、^との^か人^よハ^下直^の袍^をゆ^りさ^しぬ^るは、

式^上後^も五^位以上^の朝^服は^もる^ると^りぬ^るは、直^衣の^形なり^とす、
但^旧位^に袍^を直^衣と^りぬ^るは、元^位袍^形なり^とす、
但^旧位^に袍^を直^衣と^りぬ^るは、元^位袍^形なり^とす、
但^旧位^に袍^を直^衣と^りぬ^るは、元^位袍^形なり^とす、

以^ても^も、^との^ち冬^は表^白く、夏^は二^藍縹^のと^すて、
以^ても^も、^との^ち冬^は表^白く、夏^は二^藍縹^のと^すて、

形^とす^るふ^ら、^との^か人^よハ^下直^の袍^をゆ^りさ^しぬ^るは、
形^とす^るふ^ら、^との^か人^よハ^下直^の袍^をゆ^りさ^しぬ^るは、

り、^後の^説の^末に^近代^不用^之と^りぬ^るは、兼^平此^はほ^しより

ひまぢ^の直衣ハ出未^よ守^い此直衣とい^るもの^立此^の縹ハ

冬^の衣ハ小^の菴^に浮^織物乃^は白^き表^に紫^に表^は法^と男^子

なりぬ^まハ^泉縹^の後^の丸^文の白^綾の表^裏なる^は白^し

おと^照く^らて^る乃^も表^也年^おさ^るほ^と乃^とく^らく^は十^十年

よりハ^浅縹^也此^の浅^縹ハ^紫此^の下^條なる^は此^の元^の心^にめ^る

跡^り多^くハ^此乃^もく^らく^は浅^氣と^いふ^{なり}さ^し

ぬ^もけ^さか^んなり^ま此^の衣^の浅^縹も^二藍^の浅^縹の^心なり[。]

さ^はじ^は等^に浅^縹と^いふ^{なり}此^の浅^氣と^いふ^{なり}此^の浅^氣

此^の浅^縹なる^は此^の浅^氣と^いふ^{なり}此^の浅^氣と^いふ^{なり}此^の浅^氣

なる^は此^の浅^氣と^いふ^{なり}此^の浅^氣と^いふ^{なり}此^の浅^氣

形る、ちりゆうはまなこを、浅黄といふ、いとまきいふ、とて

しきりやう、板官位を、まの、花、き、ら、白き、裏、用、ら、

表も、白き、と、て、これ、綾、又、平、結、も、用、ら、夏、林、に、き、い、と、き

二、藍、又、深、ら、又、小、文、の、穀、也、お、と、ま、や、う、め、ま、い、大、文、の、穀、也、

小文の穀、大文の穀と、次、才、は、為、く、條、は、是、も、な、れ、き、の、と、候、氣、二、藍、の、こ、

の、こ、い、ひ、の、條、を、澤、し、と、候、は、な、ら、ば、紅、を、用、ゆ、さ、る、よ、り、て、傳、經、に、や、り、や、り、に、白、く、ま、あ、る、こ、に、白、く、

ち、り、ぬ、ま、い、ま、な、の、為、相、お、と、ま、も、同、う、で、是、は、上、を、結、す、ら

でも、是、は、結、ら、ん、の、も、か、り、色、に、結、し、ぬ、股、上、人、の、色、は、白

し、り、ま、ど、若、ま、ら、し、く、は、綾、或、は、平、結、又、林、に、縵、を、ま、ま

結、し、同、く、お、雜、袍、を、ゆ、う、て、肉、の、い、ま、を、ま、い、ら、や、う、と、な、り、結

るには雑袍と名づけられ令の法は形をばきりこまぬといふ此

制のもとに縫成此袍也但表の切よてその儀なりとあり。

宿衣トクキとは世宿衣のより衣冠と云ふなり。

宿衣といは上宿衣の男やうもといは左東事よててありて

よ何世の以時よりりとのかしく下宿衣と稱はるとる宿

でかり禪と位袍と名づけりかといはけりてかき

て少のなるより、正位正位と位上の六位は是よりてかり禪

とまじ六位は武官なるは細細細細といふけ位位と名づけり

地は正六位以下ハ加利禪とて其もたの代ハけりて其費

よきは也と重殿上人のとのかせあるも關脈の袍と名づけり

まは也、つぎてけ着衣よ、草帯草帯は、つぎに将衣の草帯は

紅返

宿衣重衣出衣は事

五衣は宴酔時どよ、紅の打袴裾は出衣わき、草帯よ、草帯は

五衣重衣の袷衣は、上重返時どよ、大返重衣返は、

五衣、時どよ、時どよ、時どよ、衣は、出衣也、出衣の重衣は春日

の便装の通時どよ、出衣也、すべて衣は、出衣、出衣、出衣

のどよ、時どよ、そのつぎ、時どよ、新の衣は、出衣、出衣、出衣

出衣、出衣、出衣、出衣、出衣、出衣、出衣、出衣、出衣、出衣

上よ、またる衣の、つぎ、出衣、出衣、出衣、出衣、出衣、出衣

布袴の事

是も袴の近の宿衣よりなるものなり下袴の事

袍より尻はより丸鞠の帯より宿衣もつは是も袴

より加ふる宿衣よりおもきとゆるき也是は布袴

とつるもの初め帯布袴といはるるものなり

帯よりハ表袴より流るるは是は袴の事なり

袴も加利禪に中より加ふる禪は布袴ともかくは

ハ加ふるものなり

虫衣布袴

是ハ虫衣布袴に袍ハ虫衣よりなるもの也

指費此る

指費ハ加利禪此布此上ノ布也幸ト云キ布ハ此ノ幅

ノ度キカリ禪ト云フコト也其ノ云ハ博ク布ハ指費

ト云フ所也指指トハ大布ハ織付布也力葉集卷十二ノ其
皮ヲ多ク彌爾刺ト

別綴布トシ 此刺ハ 指トハ大布ト大布ト云フ科不綴布ハ麻ノ
布ト云フ

ぬ布之 昔今小麻ナリヨリ班幔を引上綱と云々ト云フ科不綴布ハ麻ノ

ノカカト云フ 此此布布ト云フ 指費ト云フ 此此布布ト云フ 指費ハ禪

ト云フ也 此此布布ト云フ 指費ト云フ 此此布布ト云フ 指費ハ禪

ト云フ也 此此布布ト云フ 指費ト云フ 此此布布ト云フ 指費ハ禪

布漢字之南字統ハ奴之字を用おキらの布ハ

まじりしる也。而之物は王者以下衆人所服用也。古時有制臣下

不用。近代五位已上昇殿。六位用之。といわれはむし

臣下忌むる。物とてありしを。朱雀村上の御宇より

臣下も。はより。さき。は。物と。地も。六位

指費を。さき。を。さき。り。い。さ。れ。寛治の。比。ほ。い。礼

也。き。も。ふ。を。り。も。ふ。布衣。記の。お。む。も。六位の。白。か

利。禪。に。布。衣。を。入。て。金。き。布。の。指。費。を。さ。き。り。も。い。て。が。

力。に。か。り。指。費。を。い。て。い。れ。な。き。事。也。叔。指。費。の。色。目。傳。

布衣。表。裏。の。色。同。也。但。表。の。色。は。は。き。布。甲。白。

浮線。後。の。九。文。の。浮。織。物。男。子。なり。て。六。つ。き。布。甲。は。

浮織物そのうちを衣の裏に穿てて用ゐるは拵費也

わづらひ飛甲又鳥祥などの浮織物はその裏に穿てて用ゐるは拵費也

文の甲一を衣の裏に穿てて用ゐるは拵費也

織物に文源氏、神膳、若原、尾也、浮織物の地、法衣

通月入、衣の裏に浅気あかりぬれ、織物の固織物、文、尾

甲一、その後、甲一、文の縁を浅気、白くして用ゐるは拵費也

衣の縁より、是も文の甲一、縁を白くして用ゐるは拵費也

平織物、平織物、用ゐるは拵費也、是も拵費也、拵費也

衣の裏に表の布を穿てて用ゐるは拵費也、拵費也、拵費也

衣の裏に表の布を穿てて用ゐるは拵費也、拵費也、拵費也

重穉の穀常有事也^指指^指費^指有^指ん^指也^指以^指因^指減^指物^指也^指

の人^人之^之重穉^{重穉}の穀^穀成^成る^る也^也以^以此^此故^故に^に是^是等^等皆^皆表^表す^す

色^色を^を深^深く^く生^生成^成す^す表^表さ^さう^う單^單なる^るも^もは^は深^深なり^{なり}

^長後^後指^指費^費有^有る^る一^一以^以同^同の^の指^指費^費成^成す^すは^は是^是等^等皆^皆上^上達^達

於^於色^色を^を種^種々^々の^の事^事也^也と^とぬ^ぬ四^四位^位の^の指^指費^費 ^小平^平

^銷後^後指^指費^費の^の文^文は^は一^一の^の文^文 ^小平^平

る^る一^一の^の文^文 ^昔昔^昔の^の文^文 ^昔昔^昔の^の文^文 ^昔昔^昔の^の文^文

やく^{やく}清^清氣^氣の^の指^指費^費を^を上^上達^達す^す也^也 ^昔昔^昔の^の文^文 ^昔昔^昔の^の文^文

と^となる^る人^人の^の老^老 ^昔昔^昔の^の文^文 ^昔昔^昔の^の文^文

ら^らは^は一^一の^の文^文 ^昔昔^昔の^の文^文 ^昔昔^昔の^の文^文 ^昔昔^昔の^の文^文

ゆゑ文の織物たる位に浅気深の平絹の括費

と云ふなり

下袴

その製法の括費はどきとて二寸五分もなすべく

括り^襦なり、括費はうちよとちかぬべし、括りてよき

よき料也、裏表同一色、平絹、厚、濃、装束は種々

濃^色、紅装束は種々、紅、白装束は白也、但^夏括費は

白装束は平絹^絹給也

徒単の事

冬春、寒きときは、三ツもかきぬと、形き、口、あそび

は白の薄緑よりしてこゝろ也。かゝるこゝろは、紅紫織袴

色紅などを白き、袷一領かうも二領かうも、こゝろ紫

事也。是等より白草也。又裏こゝろ萌菴本二二領より、紅の袴へ

まゝ、紅よりうへうへ、こゝろ紫など、まゝ、こゝろ紫など、事也

事也。表ハ四位上紅、御上の位、在位、と用ゐる、こゝろ紫も同、

地、おみ位より、末、表も平袴也。又秋の季節、おみ上、達袴

も、おみ、生絹織の、季節、おみ也。

お衣の事

浮線袴の丸文の袴を、紅丸、山吹、河を、おみ、た、おみ

袴、おき、おみ、同、おみ、平袴の裏つ、おみ、おみ、おみ、おみ、

昔^もも^き久^きく^に可^か代^{だい}晴^{せい}のとき例^{れい}の桂^{けい}上^{じやう}ふ^ふく^くの^の神^{かみ}き。

事^{こと}也^{なり}六^む位^ゐた^たも晴^{せい}の^の重^{じゆう}上^{じやう}表^{へい}を^を記^しし^し局^{きよく}を^を為^なる^ると^と

可^か利^りも^も也^{なり}地^ち下^げの^の六^む位^ゐより^{より}下^げの^の平^{へい}箔^{はく}も^も也^{なり}也^{なり}也^{なり}

傳^{カリ}禪^キ衣^又の^事也

可^か利^りも^も也^{なり}以^も角^{かく}の^の神^{かみ}を^を記^しし^し局^{きよく}を^を為^なる^ると^と傳^{カリ}禪^キの^考也^{なり}

可^か利^りも^も也^{なり}表^{へい}の^の六^む位^ゐの^の次^{つぎ}ハ^ハ固^こ也^{なり}

物^{もの}或^{ある}ハ^ハ清^{せい}之^の色^{しき}文^{ぶん}を^を記^しし^し局^{きよく}を^を為^なる^ると^と裏^{うら}

ハ^ハ平^{へい}箔^{はく}色^{しき}ハ^ハ表^{へい}より^{より}下^げの^の神^{かみ}を^を記^しし^し局^{きよく}を^を為^なる^ると^と白^{しろ}也^{なり}

用^{もち}う^う、題^{だい}文^{ぶん}抄^{しやう}を^を記^しし^し局^{きよく}を^を為^なる^ると^と白^{しろ}也^{なり}

生^{せい}裏^{うら}つ^つけ^けて^てハ^ハ裏^{うら}も^も記^しし^し局^{きよく}を^を為^なる^ると^と但^{たゞ}是^{こゝろ}ヲ^ヲ記^しし^し局^{きよく}を^を為^なる^ると^と

ふ事形終上下といふは、獨衣水干なるのよきこと必

くまじりのよりといふは、かりぎぬ上下といふは、

もよもは、菊綴りといふは、又よれ

る御衣者、葛袴といふは也

傳標衣の帯は

かきぬすの帯は、さきばら結衣の帯は、下結衣

の帯は表切をいふは、又冬は白練ぬすの帯

秋は白生糸結を用いふ帯は事也、是帯をかりぎぬ

といふは、帯よはは也、さきばら結衣の帯と帯よはは

下結衣は、具きで、かきぬす、かきぬす、下結衣の

帯のきざしは唐の故實也。今ハかりきぬの表は切と帯
に心それ形き事也。

小正衣之事

かりきぬ正衣より、小正衣にぬり禰とく之ききなり。

る海ざりしき人の禰衫はよのぬれをよめて仕出さる

あやまきぬをよか抄、飾抄などよもよんぬるはあま

人おきぬをよ、^標揚家大匠さぬ大持をさるとして

海にかりきぬと同一、きざし帯とよのぬるは^深深意物

ハ帯もたつて、か刺衣は帯と用のき刺、今表は切と

帯のきざしは唐の故實也。今ハかりきぬの表は切と帯

よこす是はとちりき事なまじどおしりるに加刺衣

の帯是守とハ又是子なるへるよ也加也事通通きり

なす梨

着次第

先大日と三つ事束帯と同一次單おき上は鞋を一領

よそ二領より三領より一重袖一お衣をよひん

よ小重袖してあき一きて一お衣一袖と合せてお衣

袖ハ一はよ合せて一襦一をつまき冠一してさ一ぬき中一よ

下袴一をかき袖き一あし一行一成一以一れて一人一き一袴一をつま一りて一

さしぬきと下袴一の帯一お腰一を重袖一して一お衣一より一後一也

して、^虚書を遠く、帯を止めた、袖利遠く、後を結ぶ

ゆひて、さきもひいて、後を腰をひき、帯を結ぶが、さき

あきて、結ぶの、さきもひいて、さきもひいて、川、袍を、さき

さきも、さきも、かり、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも

て、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも

細き、結ぶ、結ぶ、結ぶ、結ぶ、結ぶ、結ぶ、結ぶ、結ぶ

後、帯を、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも

さきも、^懐懐中、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも

さきも、^唯唯鳥、帽子、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも

さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも

かまひぬに侍るは免也指但小曲衣は掛費といふカて其後

白の練ぬきの下袴夏は白の生糸下袴などを初志に

て三つの中も一つ也六位以下は宿衣かきぬたき

はかりばいぬカの色は黒く下袴をかきゆて

に侍るはこれより利菊理

常劔侍事

^古布袴と曲衣布袴より常劔の人常劔寸袴袴は細

横刀或野括刀也野横刀はとまきり草結はさうて平結を

用ゝ宿衣曲衣浄衣かりぬ小曲衣水干より申以り

常カ常劔世ぬ也是ハ畧也常劔の人常劔カはるこ

う本儀多色既^レ下^ル衣始ハ帯^ノ釵^ノ七^ノ爲^レ成^ル取^ル春^ノ日^ノ
使^ノの^レ旅^ノ形^ノ証^ノ下^ルと^レ帯^ノ釵^ノ之^レ爲^レ也^ノ西^ノ文^ノ抄^ノ侍^ノ従^ノ中^ノ務^ノ
等^ノ不^レ着^ル野^ノ釵^ノ雖^レ縮^ル衣^ノ直^ル衣^ノ時^ノ尚^レ用^ル細^ノ釵^ノ平^ノ釵^ノ等^ノと
つれと^レ後^ノの^レ世^ノ侍^ノ従^ノ中^ノ務^ノ胸^ノと^レ野^ノ横^ノ刀^ノ等^ノ之^レ

淨衣法事

白布粉張^リう^レて^レま^レは^レ帯^ノ法^ノ事^也也^ノ也^ノと^レあ^レい^レ入^レる

白^ノ糸^ノを^レ用^フ、其^ノ製^レ者^ハかり^ニぬ^レら^レし^ニき^ハ袖^ノぬ^レひ^ト

て^レ袖^ノ括^ルも^レも^ノ袖^ノか^レり^テ張^ルう^レら^レふ^レと^レり^テぬ^レて^レぬ^レひ^ト白^ノ

糸^ノ月^ノみ^レる^レ丸^ノ結^ノ一^ノ筋^ノと^レて^レ寸^ノ六^ノ加^レ重^ル衣

の^レし^レと^レき^レな^レし^レ利^ノま^レし^レと^レる^レき^レす^レし^レと^レぬ^レと^レぬ^レと^レぬ^レと^レぬ^レ

きしぬひて、金くか利にぬれど、又供^決よ^たう^たう^た

帯の白き^絹も、袴はか利禪の制衣之浄衣と同

物^しも、上^りも、下^りも、裏^もも、法^をん^ども、浄^衣も、か^り

衣^よあ^らう^し

水干

か利衣の短き物之袴の^りま^はり^ぬる^のま^はり^ぬる^のま^はり^ぬる

く^びと^りき^れく^びく^びと^りき^れく^びと^りき^れく^びと^りき^れ

手^袖く^りと^りき^れく^びと^りき^れく^びと^りき^れく^びと^りき^れ

ち^は海^よと^りき^れく^びと^りき^れく^びと^りき^れく^びと^りき^れ

し^はく^の細^紐く^びと^りき^れく^びと^りき^れく^びと^りき^れく^びと^りき^れ

とり合替て練糸諸か結也。袴傳葛布を中用し練

糸の練ぬき寸製衣のかりしうはより甲よの糸を糸

糸の練ぬき糸加刺練糸を糸を糸又上糸と水干と

甲七の糸を糸を糸かりしうはを糸を糸糸糸糸糸

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

手同、唯袴とより長身よりて帯を用ひたるもの
帯は袴まとより長身より

隨身の上下及水平は事

五枚の衣など三枚とより、上下小横力とて色を

番長已上頭の巾かをかり胡縁壺直壺中とより

賀茂八幡春日などの使籠は隨身かより帯かおして唐

後などおわ利禪は毛履は帯より、詠は紐は水平南

まどか袴まとより帯まとより冠かおより字横力乞履也、返若

などおより、帯は帯まとより也、おれより、おはぎぬ

は横力も、お守刀も、お守水干、お刀、おはりをした也

古書抄事

古書抄の如くは、いふ平家宗茂の事なるは、後の

世甲の如くは、水干よりして、いふ上代の常服なり

也、その後にいふ海軍、むねの紐、菊綴なるは、いふ之を

梨、その後、いふ常服、菊綴、いふ之を、細綴、紐の之、京都將

軍の間、抄の事、いふなると、大匠、いふ之を、いふ或は、いふ之を用ひ

さしぬ、いふ布を用ひ、いふなり、いふ今、いふ殿上人、いふ之を、いふ申す

よき、いふ糸、いふ用ひ、いふ地、いふ下、いふ之、いふ位、いふ布也、いふ袴も、いふ前者

二布、いふ後者、いふ一布也、いふ是ハ、いふ常服、いふあり、いふけ、いふ係、いふとも、いふより

の事、いふ也、いふ袴の、いふ裾、いふ之、いふ之、いふ事、いふ之、いふ部、いふ袴、いふ之、いふ之、いふ之

事也。かきしぬ水干なり。下指履を法くゆきふ。

布意履法を法くゆきし。又布意紐も。

糸を編練ぬきし也。此紐も糸を萃ゆし。布ありて

襦も布なり。寸の糸を糸をまて布は丸

布は布意といふ。丸の糸を糸を後より唯布とゆき

よぶ。糸を素袍素襦などかきし。糸を糸を糸

糸位は入ぬきし也。糸は將軍の糸。又位も糸

糸ありし事也。

鳥帽子トリカサ子コ事

謹て扱ふ。此條の事。糸を糸を糸。也。此巻も糸を糸。糸を糸を糸。糸を糸を糸也。

服飾管見卷第十二月錄

椽袍細長袍下氎衣

赤白椽袍

青白椽袍

檢非違使佐大夫尉大夫外記史赤色袍

細長袍

火色下氎襜褕下氎衣

躡躅下氎衣

裏山吹裏梅下氎衣

染下氎衣

白重 白下氎衣

引倍木

蒲萄染下氎衣 赤色織物



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



服飾管見卷第十二

權中納言從三位源朝臣宗武撰

赤白橡此袍以事

延喜御正式は赤キ白橡此袍兼議已上及用を少

坊といふは信比糸後已上位袍上やうて用

至る中此よりハ多クハ一

形制
以下同
服菊麩羽振袍
為奠袋鞞等
帶釵之者
為飾釵

但文人考文官服
隨服
為奠袋鞞等
先例當日
上卿服赤白椽袍
少卿服赤白椽袍
御堂寬弘三年

三月八日
中宮大原行啓
寬仁二年
十月廿日
上東門院行幸
御堂

内室弓場始野
行
此袍
御

大上天皇
御
皇太子
御

上卿一人
必
白椽

深

少

表

袍

下回の中より成地の表とも月よりなるべきを蘇芳

わらわすまふて、是も彼も左に袍の紋ありぬと、紫よりなる

里物と見ゆべし、先も表はまゝの月よりなるは、是を創此

袍に穀をほくく穿てし月より、若題紋紗と見るが織物の

さへ、是よりなるを、之の若織の題紋紗なるは、是を

織りしを、此の若織の世にありし物あり、いふを、人々の事

論下也

青白椽以袍乃事

たより、其を、之の若織の世にありし物あり、いふを、人々の事

と、此の若織の世にありし物あり、いふを、人々の事

内宮より場始野の行者、其の若織の世にありし物あり、いふを、人々の事

八ノノ人ノカケル多クも御事ニテ
織物ノ秋ハ色トモトモ人ノ

檢非遣使依大夫尉大史外記史志

赤色此袍の事

檢非遣使外記史外赤色此袍之原ハ赤キ白

椽然子下ハ赤シ淡緋此袍名ハ赤キ也是尋乃外

此方位ハ赤色正此袍名キナリテ赤キ也尋乃外

積昔此氣ハ淡緋ニテ赤キ也檢非遣使外記史ハ錦官

所由カケル也正此方位此淡緋を赤キナリテ赤キ也

一ノノ人ノカケル多クも御事ニテ

今、^中衣、^北袍、^多色、^之様、^此袍、^を、^中衣、^を
 着、^し、^衣、^之、^様、^五位、^の、^袍、^之、^様、^人、^之、^様、^也、

細長袍之事

皇、^子、^之、^様、^也、^衣、^之、^様、^人、^之、^様、^也、^衣、^之、^様、^也、

中右記、^承、^元年、^十二月、^辰下、^春日、^詔也、^立、^下、^若君
 卿、^同、^車、^細長、^衣、^袍、^同、^舞、^洛、^日、^次、^也、^給、^宿、^衣、^松、^重、^上、^織、^御、^衣、^薄

色、^同、^文、^奴、^袴、^野、^奴、^若、^君、^赤、^色、^細、^長、^袍、^冬、^奴、^袴、^浮、^織、^也、^此、^小、^卷、^也、^舞、^文、^此、^表、^下、^平、^織、^也

裏、^衣、^之、^様、^也、^走、^也、^此、^袍、^之、^様、^也、^一、^幅、^之、^尺、^長、^白、^身、^也

袖、^幅、^之、^様、^也、^水、^干、^の、^様、^也、^袖、^之、^様、^也、^紐、^之、^様、^也、^之、^様、^也

之、^様、^也、^之、^様、^也、^之、^様、^也、^之、^様、^也、^之、^様、^也、^之、^様、^也

之、^様、^也、^之、^様、^也、^之、^様、^也、^之、^様、^也、^之、^様、^也、^之、^様、^也

火色下教燈練下教此事

火色下教燈練下教此物

人の身中にも、まじり合はれり、火色とて

之善法流行、深紅衣、結を結つて、善法なり

淡紅輕黃末、及火色者、在制限とすれども、火色は

なまら、ほろび、紅なるは、西宮抄、或人紅下教衣

若し黒羊躰、とて、火色下教此物とて

火色下教此物、深下教此物、是中躰月とて、火色

とて、火色とて、火色とて、火色とて、火色とて

火色とて、火色とて、火色とて、火色とて、火色とて

かたき 多分のれせ 火色とくう ちんていともふ 打物

いあふに 紅梅 ちんていともふ ちんていともふ

ちんていともふ ちんていともふ ちんていともふ

ちんていともふ ちんていともふ ちんていともふ

海軍 之火色に 宿徳 以ちたれり也 此土 御食比日尊

考しそ 海軍 ちんていともふ ちんていともふ

大古 火色を とりて ちんていともふ ちんていともふ

ちんていともふ ちんていともふ ちんていともふ

ちんていともふ ちんていともふ ちんていともふ

ちんていともふ ちんていともふ ちんていともふ

いふえびしそふ^てま^やれ^ちり^かく^さん^ん

いふ^れ世^乃お^りか^きり^りす^んつ^りも^もた^まあ^る

いふ^れ下^詠お^り書^をつ^りい^はせ^れる^も

あ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^も

あ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^も

あ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^も

あ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^も

あ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^も

あ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^も

あ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^もあ^らは^まい^はる^も

堂
さうは表し、紅は梅練は、
ちゆうり、
ちゆうり、

鄭陽此下記此事

物多紙亦下記此ハ、
物多紙亦下記此ハ、
物多紙亦下記此ハ、

とあり、此鄭陽を、
とあり、此鄭陽を、
とあり、此鄭陽を、

此下記此ハ、
此下記此ハ、
此下記此ハ、

此下記此ハ、
此下記此ハ、
此下記此ハ、

此下記此ハ、
此下記此ハ、
此下記此ハ、

此下記此ハ、
此下記此ハ、
此下記此ハ、

此下記此ハ、
此下記此ハ、
此下記此ハ、

此下記此ハ、
此下記此ハ、
此下記此ハ、

蜀山下詠歌と連部後殿上人平尚

赤福濃福赤福濃福赤福濃福

浮鴉福鴉福鴉福鴉福鴉

ゆりれりとり常常ゆりれりとり常常

用りちり下り詠りのり裏りはり常常のり花りはり福り

此り比り表りとり核り裏りとりばり下り詠り福り裏りのり表り

ありりはり冬りのり表りはり常常のり花りはり福り

表り白りけりれり柳り下り詠りのり表りはり常常

羽り書りありりはり下り詠りのり表りはり常常

下詠歌の表りはり常常のり花りはり福り

二月十九日石清水臨時祭舞信信後後

下詠歌、瀨端十領柳色深十二領色

下詠歌をりしりとりてり柳り下り詠りとりをり瀨端

下詠歌と云りなりり柳り色りをりとりてりしりとり

久しうしゑの柳を移さむたはもろたをてりついで
本條 紫

椽深たしよの多さをうしはりしけかひて
もろたを

こゝちろめをれが延延弾弓式上親王以下此車馬此
原 從者

賤皂 名ちがを擲瑞深青福を延了自 白餘の包ふを

尾欠 名ちがをうりつ御時迄てて居るをむとむり ち こ

既ら皂 名ちがを色を福にほはしほれつをくくもく

たのめあふ人 名ちがを擲瑞深青をむとむり

なう 名ちがをむとむり ち こ

たのめ 名ちがをむとむり ち こ

又胡昔 名ちがを皇太子に御装束牙衣中上 表 擲瑞 名ちがを

ま^との^と 瀧^と 瑞^と 厚^と 之^と の^と 人^と 妙^と 色^と 深^と 蘇^と 芳^と 子^と 似^と て^と 伊^と 呂^と

也^と 一^と け^と 不^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と 御^と 河^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と 山^と 道^と 都^と 也^と

う^と ら^と ま^と う^と 乃^と 方^と て^と 瀧^と 瑞^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と と^と 蘇^と 芳^と 此^と

御^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と と^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と

蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と と^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と

料^と 小^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と と^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と

村^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と と^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と

裏^と 山^と 吹^と 裏^と 梅^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と

例^と 此^と 梅^と 色^と 深^と の^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と と^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と

之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と と^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と と^と 蘇^と 芳^と 此^と 下^と 詠^と 名^と 之^と の^と あり^と 之^と ち^と ね^と

毛子カシのりて田タわしカるカ春日祭カ此カ舞カ人カ

紅梅ベニウメ色イロ此コノ袍ホ色イロ也ナリ

江注カ二月春日祭カ此コノ袍ホのカ舞カ人カ紅梅ベニウメ色イロ也ナリ

前マのカ装カ束カ中カ也ナリ台ダイ記キ工コウ藤フジ芳ヨシ比ヒ部ブ代ダイ袍ホとトがガいイふフ也ナリ

小紅梅ベニウメ此コノ色イロのカ薄ホソきキ藤フジ芳ヨシ比ヒ部ブ代ダイ袍ホとトがガいイふフ也ナリ

予ヨりリ此コノ比ヒ部ブ代ダイ袍ホのカ裏ウラ梅ウメとトがガいイふフ也ナリ

裏ウラ紅梅ベニウメ此コノ色イロのカ薄ホソきキ藤フジ芳ヨシ比ヒ部ブ代ダイ袍ホとトがガいイふフ也ナリ

裏ウラ小紅梅ベニウメ此コノ色イロのカ薄ホソきキ藤フジ芳ヨシ比ヒ部ブ代ダイ袍ホとトがガいイふフ也ナリ

江注カ二月春日祭カ此コノ袍ホのカ舞カ人カ紅梅ベニウメ色イロ也ナリ

下シタ袍ホとトはハ此コノ比ヒ部ブ代ダイ袍ホとトがガいイふフ也ナリ

汗アセ衫カミとトはハ此コノ比ヒ部ブ代ダイ袍ホとトがガいイふフ也ナリ

此のまゝ〜〜〜と深行衫と〜〜〜と〜〜〜と此のまゝと

このまゝは下流部で喜ぶの裏の深も〜〜〜と夏秋此のまゝ

このまゝ〜〜〜と深も〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

このまゝ〜〜〜と深も〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

このまゝ〜〜〜と深も〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

有本 藤芳 此のまゝ也 此のまゝ本意の〜〜〜と

このまゝ〜〜〜と深も〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

このまゝ〜〜〜と深も〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

このまゝ〜〜〜と深も〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

裏例此のまゝを〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

出高... 抄... 後... 檀... 仰... 之... 例... 但... 十月... 紅...

相残... 鳥... 之... 仰... 由... 今... 出... 相... 国... 記... 之... 之... 法... 相... 重...

法... 相... 重...

白重... 事...

雅亮... 抄... 四月... 日... 之... 之... 之... 之... 之...

と... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...

と... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...

り... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...

い... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...

と... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...

^衛 侍所のうぶしむ 侍所此^官人の^白書 侍所のうぶしむ

にてふたつとらけ 侍所此^官人の^白書 侍所のうぶしむ

 仁安三十

^二殿記^白 侍所^著 院^院 侍所此^官人の^白書

^之時不^白重^之也

人ナドモ一日不出仕^ニ 明日ヨリ出仕^出 人^白 侍所此^官

侍所此^官人の^白書 侍所のうぶしむ

侍所此^官人の^白書 侍所のうぶしむ

侍所此^官人の^白書 侍所のうぶしむ

^白 侍所此^官人の^白書 侍所のうぶしむ

侍所此^官人の^白書 侍所のうぶしむ

^下 侍所此^官人の^白書 侍所のうぶしむ

二人、^物結織物と云々これ^具たりと用ふる事、^物結織

くも、^物正月十日此一日更衣を^物進ぶるの法あり

不用^物はつらむくもや、^物つむ、^物西宮が^物古時

く^物白^物結^物衣と^物は^物なる^物十月一日此表裏白^物と^物は^物なる

たり^物の^物結^物白^物と^物は^物なる^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣

る^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣

用^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣

む^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣

の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣

の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣^物の^物結^物衣

白下襦袢の事

此白下襦袢を白^禪と云ふは、
く^元一一人中

は、
は、

例に浮線^線は、
は、

乃、
は、

院、
元、
寺、
日、

朝、
重、
打、

ト、
打、
は、

と、
は、

中、
表、
常、

何ぞとてゆふと例に菱文の白く穀先早の凡下能く

何ぞとて何月何日何年置て

何ぞとて何月何日何年置て

何ぞとて何月何日何年置て

何ぞとて何月何日何年置て

菱文の白く穀先早の凡下能く

何ぞとて何月何日何年置て

何ぞとて何月何日何年置て

何ぞとて何月何日何年置て

西宮の御子末御月御事志とるれ末由信本ハ九月

之間月之異年確月或、
其年確月と云由、
後の世他人

川信本此下、
其の年確月も表とありて裏

さく之月、
又度、
其の年確月と云と

おのちたる人も、
是の年確月、
此の年確月

西宮、
此の年確月

上達、
此の年確月

此の年確月、
此の年確月

此の年確月、
此の年確月

此の年確月、
此の年確月

此の年確月、
此の年確月

とあるは例は各代々表と控^梧て表とせしむるなり
事 下流たるは事^事は事^事に事^事なり
表とす月乃るる表とすなりとすなり
此は可^可なり
下流たるは事^事に事^事なり
表とす月乃るる表とすなりとすなり
院 乃るる表とすなり
抄 乃るる表とすなり
院 乃るる表とすなり

中よ元治元年寅月廿二日 加茂詣殿下濃色別信
本御下重あり也、言裏^單也、冬道交、文結^綾也、之由、
是種、乃深下流の表也、又榮^榮花地錦は乃るるの
巻 本より白殿下なり、乃るるの表也、此より乃るるの
乃るるの表也、乃るるの表也、乃るるの表也、乃るるの表也、
打 乃るるの表也、乃るるの表也、乃るるの表也、乃るるの表也、乃るるの表也、
打 乃るるの表也、乃るるの表也、乃るるの表也、乃るるの表也、乃るるの表也、

牛馬の表をうらむとてさういふ

佐ひ
例は藤の下の

この表をうらむとてさういふ

見事してあつた何事もいふ

の表は之とて捨る心もて打つて表のうらむ

とかくいふはけいも也なり既に之は鶴も鶴也

おのりてさういふとてさういふかた下をうらむ

表はかへしてさういふとてさういふはけいも也

おん

葡萄の表をうらむとてさういふ

葡萄の表をうらむとてさういふはけいも也

葡萄の表をうらむとてさういふはけいも也

詠歌下^ト一々を^ト喜^トふ^ト心^トの^ト心^トの^ト衣^ト襖^ト等^ト小^ト纏^ト裏^ト川

くくは^ト八^ト藤^ト苗^ト子^子の^ト懸^ト世^トを^ト体^ト中^トの^ト心^トの^ト衣^ト裏^ト小

志^トふ^ト心^トの^ト体^ト中^トの^ト心^トの^ト衣^ト裏^ト等^ト小^ト纏^ト裏^ト川

利^ト者^ト光^ト緒^ト乃^ト下^ト詠^ト歌^ト差^ト喜^トふ^ト心^トの^ト心^トの^ト衣^ト裏^ト等^ト小^ト纏^ト裏^ト川

此^ト二^ト三^ト月^ト此^ト地^トこ^トろ^ト同^トし^トか^トく^ト別^トを^ト存^ト也^トと^ト也^ト

く^トり^トの^ト藤^ト苗^トは^ト下^ト詠^ト歌^トと^トい^トは^トば^ト下^ト詠^ト歌^ト此^ト藤^ト苗^トは^ト乃

く^トり^トの^ト藤^ト苗^トは^ト下^ト詠^ト歌^トと^トい^トは^トば^ト下^ト詠^ト歌^ト此^ト藤^ト苗^トは^ト乃

く^トり^トの^ト藤^ト苗^トは^ト下^ト詠^ト歌^トと^トい^トは^トば^ト下^ト詠^ト歌^ト此^ト藤^ト苗^トは^ト乃

く^トり^トの^ト藤^ト苗^トは^ト下^ト詠^ト歌^トと^トい^トは^トば^ト下^ト詠^ト歌^ト此^ト藤^ト苗^トは^ト乃

河海抄^抄紅葉^葉 南宮譜云^曲此曲^曲東和^和御時^時大納言^言良岑^岑世朝^朝臣^臣奉^奉勅^勅余^余作^作此^此舞^舞時^時依^依勅^勅依^依詠^詠調^調但^但詠^詠中^中野^野童^童朝^朝臣^臣詠^詠と^と云^云の^の中^中に^にも^も不^不す^す也^也

西宮町の臨時の^陸倉乃御人此は衣平の葡萄畑の下託と

りねるは此御人の下託に事なけれは^カ少々の葡萄

畑の^打下託と^カな^カり^カ同^カ一^カか^カ色^カの^カ下託の中^カに

葡萄畑を^カ用^カと^カり^カな^カる^カは^カ下託の事也^カ

おの^カい^カく^カご^カう^カご^カう^カ西^玉海文^カ三^カの^カ二月石清水臨時

此^カの^カ修^カ上^カあり^カて^カ例^カは^カと^カ東^カ葡萄^カ畑^打なり^カ

御^カ下^カ託^カを^カ様^カの^カ御^カ下^カ託^カと^カ移^カす^カと^カ通^カ親^カ御^カと^カなり^カ

云^カる^カは^カ御^カ下^カ託^カと^カな^カり^カ既^カ下^カ江^カ次^カ牙^カ子^カ石^カ清水^カ臨

明^カの^カ修^カ上^カの^カ御^カ人^カの^カ世^カ來^カり^カ葡萄^カ畑^カと^カあり^カ再^カ出^カ御

人^カの^カ御^カ下^カ託^カ乃^カ御^カ下^カ託^カと^カなり^カと^カなり^カ

つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

いふ^信つるつるのうへへにたのむくはをふしてつるつるのうへへ

右 召むらむらふらふ葡萄汁下流衣とてくは伊豆り是等

を合勢方えれはり流衣とてくは伊豆り是等

事 下流衣とてくは伊豆り是等

喜色此御袍とてくは伊豆り是等

はくぬえをり流衣とてくは伊豆り是等

春流衣とてくは伊豆り是等

利山石清水流臨時の流衣とてくは伊豆り是等

湯り流衣とてくは伊豆り是等

水臨時流衣乃流衣とてくは伊豆り是等

其 時とてくは伊豆り是等

子朝下流衣とてくは伊豆り是等

水臨時流衣乃流衣とてくは伊豆り是等

其 時とてくは伊豆り是等

等ふふておとをまふふり勢くちふし

赤色純減物建事

胡曹か工赤色経紫緯赤頭とつらひとすう南紀

かくく小紋赤色はじくく小地濃藍地じくち色

寸登七減物八地付七色一七紋色なる例なる

小梅の織物八経紅緯白山吹純減物八経紅緯紫赤色

八減物八経藤本緯紫也かくは赤色純減物八経藤紫

八赤色色少七緯紫打くくくく色又胡曹物七七海菊

深赤減物八経紫赤緯紫とつらひとと撥た七打打七色

くは色七くは減物八経紫緯白也八打紫打七

薄色
薄色はとも也、これに薄色は乃指すとも古き物語

薄色はとも也、これに薄色は乃指すとも古き物語

書
出た水に説也、又凡流は薄色は乃指すとも古き物語

経緯緯、蘗、芳、純、赤、色、を、も、つ、る、也、

服飾管見 卷第 十三 目錄

染下襲、表袴、平緒、濃装束、紅装束、白装束、
染装束、唐装束、



火色 蘗、芳 裏濃、蘗、芳 萌木

薄色 白下襲 梅 紅梅 櫻

櫻、萌木 山吹 藤 花橋 青柳

躑躅 躑躅 桔梗 萩 女郎花

菊 紅葉 薄葡萄 松重

表袴 平緒 濃装束

紅装束 白装束 深装束
唐装束

服飾管見卷第十三

権中納言從三位源朝臣宗武撰

深下襲ひかりのり事

火色

火色ひいろのり事ことは、
表織あはだのり事ことは、
裏うらのり事ことは、
赤あかのり事ことは、
白しろのり事ことは、
深ふかのり事ことは、
唐からのり事ことは、

うきん^をら^をけり^つし

黄を

り^もめ^らら^甲く^黄色^也宿^老の^三係^也也^也

け^りな^らん^黄が^らん^ん

白下詠

り^もめ^らら^白の^張り^して^平也^是ハ^平也^也

さ^の人^の危^也と^おし^ひて^さの^も也^なら^ん白^張也^也

は^らへ^夏ハ^平文^の白^の敷^裏け^て用^いふ^事

人^何も^さく^さず^夏の^更れ^の白^張也^取置^て也^也

事^もな^らず^下も^もむ^事

ひさし

梅

ひさして白裏深^深積芳^芳なり^{なり}も^もた^たき^きは^はく^くし^しの^の船^船

ハハ節^節二月^{二月}まで^{まで}也^也

紅梅

おもしろ紅梅裏深^深積芳^芳なり^{なり}倍^倍も^もき^きは^はく^くし^しの^の船^船

梅

おもしろ白裏深^深積芳^芳なり^{なり}倍^倍も^もき^きは^はく^くし^しの^の船^船

おもしろ是^是と^とは^は白^白梅^梅も^もは^はく^くし^しの^の船^船

梅羽木

表萌木裏鏢梅核ハ何のあ深蘗芽裏鏢也

此二色ハ必必梅の白文ハ織物と用いし形也

三好のそとさくお日

山吹

表山ふのさく裏萌木中倍ハ黄也三月より

くねやまさき

藤

お又中藤の色うら三月より四月まで

形ハ藤の色

花橋

おもむきうら^ら山吹り日^し但^しる^ちの^ち白

文の織物と用^く花柄は白文と八花葉と^{たに}四五^月

ミ^りヤ

青柳

表^は落^ち木^は裏^は濃^く落^ち木^は形^はな^らか^ら此^は落^ち木^は二^三月

き^は落^ち木^は表^は落^ち木^は裏^は落^ち木^は形^はな^らか^ら裏^はく^しう
に^はく^しう^は二^三月^はき^り形^はく^しう

躑躅

お^もむ^き落^ち木^は裏^は落^ち木^は紅^く躑^躅の^ち白

落^ち木^は形^はな^らか^ら二^三月^はき^り

瞿麥

石門紅梅包裏花末五月より六七月赤也

桔梗

石門二藍裏花末七八月赤

萩

石門萩花末七八月赤

石門紅經花末七八月赤

女郎花

石門女郎花末七八月赤頭文紗赤

石門青經花末七八月赤

菊

おもひ 白宇ら 萩芳と びりりハ 菊と もよふな

ハ 節々 移草 おもひ 萩葉 萩木 形く 落馬^青ハ 萩菊と

よきと られど 古くハ 是と 申^{たい}菊と 此ハ 其^く代^く

菊花ハ ちか^色む む^故 ぼん ぼん ぬき けし^{紅菊}ハ 表^萩 紅^葉 萩^木 白^菊
おもひ 菊花^と の もの して 菊^葉 萩^木 と けし^{紅菊}

表 白 裏 萩 木 似れし 形く ハ 萩^葉 と 九月 ぐ 又 節^近

こころ 似^る 但 し けし^{紅菊}ハ 萩^葉 と 九月 ぐ 又 節^近

紅葉

おもひ^て ぬき けし^{紅菊}ハ 萩^葉 と 九月 ぐ 又 節^近

くろ 又 節^近 けし^{紅菊}

し二重^ニ此^レかき^テふ^レて、三^ニさ^ハき^テあ^ラる^レる^レ中

信^ハり、^ハり^ハ裏^ハ例^ハ菱^文の^後、^春冬^ハ深^クア

夏^ハ秋^ハ半^ハ長^キ存^ヤ、表^ハお^ハく^ハ後^ハ深^ク

下^ニは^バ浮^キ織^物固^ク織^物も^ト、^夏秋^ハ頭^文紗^生此

織^物も^ト用^フ、^冬も^トす^レ但^シ梅^ノ花^も織^物

ほ^ケ来^ル梅^ハ上^ニ織^ル、^紅糸^織は^ハな^らず^ハ織^物也^ニ

糸^ハう^レ梅^ハ半^ハ長^キ存^ヤ、^冬も^トす^レ但^シ梅^ノ花^も織^物

改^メぬ^レは^ハ唐^鳥尾^長例^ハ丸^文窠^管形^也

い^ハら^ハも^トす^レ但^シ梅^ノ花^も織^物也^ニ

文^織も^トす^レ但^シ梅^ノ花^も織^物也^ニ

八月一
八月一
八月一
八月一

八月一
八月一
八月一
八月一

八月一
八月一
八月一
八月一

八月一
八月一
八月一
八月一

八月一
八月一
八月一
八月一

八月一
八月一
八月一
八月一

八月一
八月一
八月一
八月一

八月一
八月一
八月一
八月一

八月一
八月一
八月一
八月一

表
表
表
表

胡木 蘗 芳 裏 ^濃 蘗 芳 山 吹 花 用 但 裏 ^濃

ひり ^深 蘗 芳 此 裏 之 餘 裏 の 表 と 比 ぶ

多 ^一 山 吹 花 之 裏 之 所 取 之 一 二 三 四

平 芳 表 表 之 先 之 所 取 之 一 二 三 四

文 室 之 裏 之 所 取 之 一 二 三 四

花 之 裏 之 所 取 之 一 二 三 四

平 芳 之 事

紅 梅 地 平 結 八 正 月 十 文 之 用 之 事 ^專

花 之 裏 之 所 取 之 一 二 三 四

紅 梅 地 平 結 八 正 月 十 文 之 用 之 事

まは時をとりて... 東路此紅梅也此は丸

も夏もさう... 夏

前木此平統は是といひ... 春用

也

棟統此平統... 桃... 桃

と... 世リ... 地は向く... 桃

此は成棟統といふ... 後照念院殿此はなり... 網

此棟統はときを... 平統なり... 月のみ

の... 風... 左

白地... 平統... 常... 左

世

世

とて小忌此人乃喜物さくさくさくさくさく小忌さくさくさく備小

ハ形木此文をえさくえさくえ思えさくえ白えめひやとふ

説えりハえ紳え地えたえ紳え地え白え形木此文

ぬひえふえもえ小忌え此え事えとえし

护え終え此え事え九十月え此え事え此え事え此え事え

ハ備文定え事え

濃装束え事え

赤衣草衣中え袴え深え蕨え芳え花えてえ童え此え事え

和え田えさくえさくえさくえ他え一え心え

とハえ青え草え事え用えし

紅装束之事

赤衣草衣中袴（どろもろ）わろく成子（濃）装束

ふくぬ袖（より）白装束（きん）（（きん））

白装束之事

赤衣草衣中袴（どろ）白（な）白（同）、但（一）（（うら））

是ハ赤衣ハ（か）かく（く）、中袴ハ（は）法（て）用（う）白装束ハ

六十（より）高（たか）之、官（かみ）高（たか）人（ひと）（（よ））

深装束之事

半袴（はん）下袴（げ）表袴（ひょう）、この（は）成（な）深（ふか）之、但（一）半（はん）下袴（げ）

の（も）ろ（も）、（ま）た（た）半袴（はん）と（し）別（べつ）の（ま）半袴（はん）カ（て）法（は）深（ふか）（（ま））

（（ま））
（（ま））

らりしる

唐装束の事

袍半臂^臂下袂^袂表袴^唐功と用とと心^心他^他袍^心

或^或は^は記^記衣^衣を^を衣^衣内^内に^に穿^穿は^はく^く事^事也^也

記衣表袴唐内^唐に^に穿^穿は^はく^く事^事也^也

服飾管見卷第十四目錄

出衣透衣鞘卷^刀刀^刀

出衣 透衣 隨身透裾

鞘卷刀 近世刀



服飾管見卷第十四

権中納言従三位源朝臣宗武撰

出衣の事

雅亮い抄まいくむむなな河へふふぬぬをを字じ
ぬぬららははぎぎ思しひひのの事事つつのの事事ととぬぬりり又又節せのの事事人人
くくままいいのの事事伊いのの事事又又法ほのの事事

服飾管見卷第十四目録



なりまゝの服と人のおもひをうけておもしろくもみぢうが

さ福なまじりも伊はのおんせうねらやほほの

しゝのがおほほふかたうへはむもあなな

かあまにうへは

くあひえ伊あけをえむむとやうあけりてき

なほ里をともみてやあはれがくもむえのや

さゝるもはなもそれなうせうまはるもあけ

なまいたはあみおすあともあはれ大将を仰

あてつうまにたは

ちゝち紙もあまじうあかか

かあまにうへは

くあひえ伊あけをえむむとやうあけりてき

なほ里をともみてやあはれがくもむえのや

さゝるもはなもそれなうせうまはるもあけ

なまいたはあみおすあともあはれ大将を仰

あてつうまにたは

ちゝち紙もあまじうあかか

あも又す^七 西の御奉^幸なごほの御^一し^二も^三思^四を^五け^六る

つゆれ^一の^二け^三る^四は^五れ^六る^七に^八か^九く^十は^{十一}な^{十二}ら^{十三}な^{十四}御^{十五}

も^一め^二る^三に^四又^五の^六あ^七ら^八お^九も^十の^{十一}あ^{十二}ら^{十三}お^{十四}も^{十五}

も^一め^二る^三に^四又^五の^六あ^七ら^八お^九も^十の^{十一}あ^{十二}ら^{十三}お^{十四}も^{十五}

も^一め^二る^三に^四又^五の^六あ^七ら^八お^九も^十の^{十一}あ^{十二}ら^{十三}お^{十四}も^{十五}

本形^一に^二ら^三の^四ぎ^五ぬ^六そ^七の^八綿^九入^十き^{十一}係^{十二}桂^{十三}の^{十四}事^{十五}也^{十六}お^{十七}め^{十八}ら^{十九}う^{二十}

て^一ぬ^二も^三も^四も^五み^六ぢ^七の^八あ^九ら^十な^{十一}ご^{十二}う^{十三}て^{十四}ぬ^{十五}た^{十六}み^{十七}ぢ^{十八}

と^一ら^二な^三ら^四へ^五入^六き^七係^八桂^九と^十ら^{十一}な^{十二}ら^{十三}へ^{十四}入^{十五}き^{十六}係^{十七}桂^{十八}也^{十九}

も^一み^二ぢ^三の^四あ^五ら^六の^七あ^八ら^九の^十あ^{十一}ら^{十二}の^{十三}あ^{十四}ら^{十五}の^{十六}あ^{十七}ら^{十八}の^{十九}あ^{二十}ら^{二十一}

ま^一も^二同^三の^四あ^五ら^六の^七あ^八ら^九の^十あ^{十一}ら^{十二}の^{十三}あ^{十四}ら^{十五}の^{十六}あ^{十七}ら^{十八}の^{十九}あ^{二十}ら^{二十一}

たはなほしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

こもあはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

あはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

あはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

あはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

あはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

あはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

あはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

あはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

あはれしほしよわいふもあはれなむらさきもあはれ

うたれはひふしつゝあつゝのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

あまのつとむらじのこころいふはあまのつとむらじ

千々も太刀佩とてく童居候など扱柄者はさす柄

此鞘巻は刀の事もさうりしきくしき柄なす候人は

らんまふほくきを近世ハつむかをころん又糸く柄

まきなすとすきと四彈釘ちくも糸て巻巻る柄まきつと海ま

減人畫か合はきやまきけり此たてきふ南時や雁雁らとらぬはどのけり
つるまはるふなどいさかやまきくハいさきりけるや世の末ハかく同

おほゆると多ハくハハころかりあなるをさほらくは

くむいさきまきくは縁糸くころを巻るくまの多

くハ筒金ををりてきりさやハきさきもやほくも同柄り

きさきまきくきく金く柄もけりまきくめ鞘きみもせて

きくきく柄もけり柄は既ハほきなまたいらんかろも

九根様を角さへも又さへみ鞘なるやわい

流るる形く海先尾乃まきサゆどくしてせしせし

かぞへし大ま細きの結法なも有るかなかり

ハ多くまきさびるれがなるもからからなるあハ

まことこの形なるけいがいはくらりけみ
くいよさまさるほい

こゝに製づく料殊の中は曲士のらうは海にわたりさうまら
夫さをしをし初初おおかけじんじハハ材材ななてて結結ををむむ集集はははは材材

小カカ四四尋尋一一も
是是にに四四尋尋也也かかううももなるなるる常常よよいいてて形形をを結結ははるるはは

こゝに製製根柳材材鞘鞘巻巻ののうう形形いいううのの形形なるなるる

伊伊でで長長くく大大なな帯帯よよくくしてして紐紐ををささめめりりかかも

て帯帯はは押押ししるる也也ここののやや形形ががぬぬきき料料也也ここののななよ

二九 鞘巻といひたり其鞘加へてすも事ハ物具所

宇履を履でもといひるとも事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ

事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ

ハ腰刀ともいふ懐子といふ事ハ懐刀ともいふ事ハ

ともいひたりし事ハ人成るに事ハ物なるに事ハ

事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ

事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ

延喜式武野宮年中供物の中ハ小刀子二枚カ刀子十枚三枚長各寸廣

手壽とありて伊勢其の年中供物の中ハ長刀子二枚短刀子五枚と

あり短刀子といふ事ハ長刀子と伊勢といふ事ハ

あり短刀子といふ事ハ長刀子と伊勢といふ事ハ

中ハ刀子七枚の中ハ眞の骨とサ料などあり

事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ

の^宮 ~~包~~ ^板の^狭 度より^并と^ひ ~~せ~~ ^は 法師の^袖 ^を せら^る 事
かの法師^傳より包^丁刀^忌 ^き ~~り~~ ^と ~~こ~~ ^し ~~も~~ ^ち ~~か~~ ^ら ~~な~~ ^り 袖^を せ^ら ^る 事
な^ら ~~ば~~ ^も ^ち ~~も~~ ^ち ~~も~~ ^ち ~~も~~ ^ち ^は 法師
な^ら ~~ば~~ ^も ^ち ~~も~~ ^ち ~~も~~ ^ち ~~も~~ ^ち ^は 法師

近世の刀乃事

近世つて ^靴 ^を ^お ^い ^と ^長 ^き ^と ^刀 ^と ^い ^へ ^る ^事 ^也

この中世なる良法師など衣^を 腹^を 巻^て 帯^を 用^ひ たるは

ま^は ^ら ^む ^も ^と ^い ^へ ^る ^事 ^也

の帯^と 利^に 違^は ぬ ^事 ^也

これ^が ^刀 ^と ^い ^へ ^る ^事 ^也

と^い ^へ ^る ^事 ^也

と^い ^へ ^る ^事 ^也

大任下下下

此書七田安の推中納言從三位源宗武卿法著述なりて、彼法宗武卿

中將の名は一曰してこそ世給ひ、見まふしく思召て、白川の城を源
定信が臣、宗武卿の由子とて、中將の名は從牙成し故、法宗武
卿は位少將源勝常朝臣をなして、定信の朝臣こそ世給ひ、その法宗
武卿の世給ひは、侍の人をなして、是を宗武卿の世給ひとて、
衣紋の世にあらはし侍りし、此書の衣紋を宗武卿の世給ひとて、
ことをゆるさせ給ひ、侍りに、悉く宗武卿の世給ひとて、
了備へ侍りぬ、宗武卿は侍り、宗武卿の世給ひとて、
宗武卿の世給ひとて、侍りに、悉く宗武卿の世給ひとて、
宗武卿の世給ひとて、侍りに、悉く宗武卿の世給ひとて、

大任下下下
中將の名は母方の法宗武卿の世給ひとて、
天明四年甲辰六月

源久恒識

大任七年丙申九月廿三日以新不并藏本一校畢
直二

